東南アジアの資源と政治

こんな問題に取り組んでいます

経済成長の著しい東南アジア諸国では、土地、森林、水といった天然資源をめぐる様々なアクター間の競合が激しくなっています。バランスのとれた天然資源の管理は、持続性のある発展に不可欠です。資源ごとの競合が、どのような歴史的文脈の中で生じてきたのか、これからどこに向かおうとしているのかをフィールドワークで調べています。

こんなことがわかってきました

事例研究対象地の一つ、カンボジアのトンレサップでは、昨年100年間続いてきた漁区割り当てシステムが撤廃されました。零細漁民に歓迎されたこの政策の背景には、選挙で勝つ手段として湖の資源が用いられたと考えられます。資源と政治は密接に関係しています。

研究の成果はこんな分野に活かされます

住民参加型資源管理事業や地方分権化といった潮流の中で資源管理を中央と地方でどう分業すべきかを議論するときに役に立つ研究です。東南アジア史に資源の角度から新たな光を当てる研究でもあります。

連絡先：　東京大学　東洋文化研究所
佐藤仁　<satoj@ioc.u-tokyo.ac.jp>

カンボジアのトンレサップ湖における漁業資源をめぐる政治問題は最近、集中的に研究しているテーマの一つです。トンレサップには、100万人ともいわれる水上生活者が漁業を営んでいます。

日本の資源論も研究テーマの一つです。昨年は、『持たざる国の資源論』（東京大学出版会）という本を出しました。